

＜ギャラリー 夢ロード＞第27回展

詩人の肖像 川原一夫彫刻展

2026年6月16日（火）～28日（日）月曜休館
＜ギャラリー 夢ロード＞
山口県下関市豊北町滝部 835

出品作品一覧

（サイズは、高さ×幅×奥行）

- ＜初期習作 4 体＞1986 年頃 テラコッタ 各
23×10×10cm
- ＜セリーヌ＞ 2003 年頃 テラコッタ 133×
50×45cm
- ＜宮沢賢治＞2000 年頃 テラコッタ 41×35
×30cm
- ＜金子光晴＞ 2000 年頃 テラコッタ 54×54
×47cm
- ＜少年 ランボー＞ 2000 年頃 テラコッタ 38
×30×27cm
- ＜詩人 ランボー＞ 2000 年頃 テラコッタ
36×33×26cm
- ＜最晩年 ランボー＞ 2000 年頃 テラコッタ
37×33×23cm
- ＜女の子の衣装を着せられた小さなアルトー＞
2003 年頃 テラコッタ 36×22×30cm
- ＜青年 アルトー＞ 2003 年頃 テラコッタ
43×30×25cm
- ＜壮年 アルトー＞ 2003 年頃 テラコッタ
34×40×27cm
- ＜最晩年 アルトー＞ 2003 年頃 テラコッタ
58×40×50cm
- ＜カミーユ・クローデル「彫刻を想う」＞ 2003
年頃 テラコッタ 32×50×55cm
- ＜カミーユ姉弟の粘土運び＞2003 年 テラコ
ッタ
カミーユ 42×30×22cm
ポール 35×18×16cm
- ＜群舞「アブラカダブラ」＞ 1996 年 テラコ
ッタ
No.1 40×40×20cm
No.2 40×32×18cm
No.3 48×21×19cm

- ＜群舞「ショー・ガール」＞1994 年頃 テラコッタ
No.1 44×23×19cm
No.2 44×23×20cm
- ＜群舞「くらげのファッションショー」＞1996
年 テラコッタ
No.1 36×37×16cm
No.2 36×17×20cm
- ＜群舞「サンサン レゲエ」＞1997 年 テラコッタ
No.1 39×19×18cm
No.2 38×22×16cm
No.3 38×25×14cm
No.4 35×20×14cm
- ＜バレエ 群舞より＞ 2013～20 年頃 紙塑
No.1 街角の少女たち より 15×10×10cm
No.2 ワルツ より 30×25×17cm
No.3 ワルツ より 22×22×20cm
No.4 L.O.V.E. より 40×30×20cm
No.5 マスカレード より 38×25×25cm
No.6 アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク より
32×25×25cm
No.7 アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク より
32×25×25cm
No.8 アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク より
34×22×35cm
No.9 アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク より
34×25×35cm
No.10 ライズ 22×17×10cm

川原一夫略歴

1948 年、厚狭郡王喜村（当時）に生まれる。1967 年、山口県立豊浦高校卒業。1971 年、明治学院大学仏文科卒業。1973 年、石版画を始める。1985 年、粘土造形を始める。主に個展、グループ展にて作品発表、現在に至る。下関市豊北町滝部在住。

2026.6.16

ルイ・フェルディナン・セリーヌ

(1894-1961)

フランスの小説家。第一次大戦従軍後、反戦・反国家主義に立って自伝的小説『夜の果ての旅』を著す。のちロシアへの旅行後反 Kommunismus、また反ユダヤ・反資本主義の文書を発表。対独協力的な書簡を発表したことなどから第二次大戦後戦犯とされた。著作に『なしくずしの死』『城から城』『リゴドン』など。

宮沢賢治

(1896-1933)

詩人・童話作家・宗教思想家。岩手県生まれ。盛岡高等農林卒。花巻農学校で農業指導者として活躍のかたわら創作。化学・地学などの知識に裏打ちされた物質観や自然と農民生活で育まれた独特の宇宙的感觉と宗教的信条に満ちた詩・童話を残した。1926年、農学校退職後は、農民たちに芸術論などを講義したが、病気がちになり37歳で没した。生涯、法華経を敬信した。童話『注文の多い料理店』『風の又三郎』『銀河鉄道の夜』詩集『春と修羅』など。

金子光晴

(1895-1975)

詩人。愛知県生まれ。早大予科・東京美校・慶大予科をいずれも中退。ヨーロッパ留学ののち『こがね虫』で詩壇に登場。絢爛たる詩的世界が注目された。詩人の森三千代と結婚して東南アジアからヨーロッパまで5年間放浪し、東西両文明を体現。強烈な自我意識とニヒリズムを基調にした詩風に転じた。詩集『鮫』『落下傘』『人間の悲劇』自伝小説『どくろ盃』など。

アルチュール・ランボー (1854-1891)

フランスの詩人。ヴェルレーヌやマラルメらとともにフランス象徴派の代表的詩人。16歳から19歳まで、その異常な早熟ぶり、特異な詩才、独自の「見者」の詩法により20世紀の詩に深い影響を及ぼした。以後20年間は、ヨーロッパ各地、アラブ、アフリカなどを放浪、武器商人ともなり、病没。作品に「酔いどれ船」『地獄の一季節』『イリュミナシオン』など。

アントナン・アルトー

(1896-1948)

フランスの詩人・俳優・演劇理論家・思想家。シュルレアリスムに参加するが、のち絶縁。肉体言語や残酷演劇の概念を提唱、西欧演劇の根本的変革を企て、以後の演劇に強い影響を与えた。後年奇矯な行動から長く精神病院に収容されたが、最後は社会生活に戻った。著作に『ヘリオガバルスまたは戴冠せるアナーキスト』『演劇とその分身』『ロデーズからの手紙』『ファン=ゴッホ 社会が自殺させた者』など。

カミーユ・クロデル

(1864-1943)

フランスの彫刻家。少女時代より「触れたいという欲求、両手の中に粘土を持つ喜び」(弟ポール=詩人・劇作家・元駐日大使による)に目覚め、才能を現す。ロダンに師事し助手も務め、愛人でもあったが、のち関係を断つ。ロダンが自分の成功の邪魔をするとの妄想から精神病院に収容され、30年間外界から遮断されて没した。代表作に『分別盛り』『波』『ワルツ』など。